

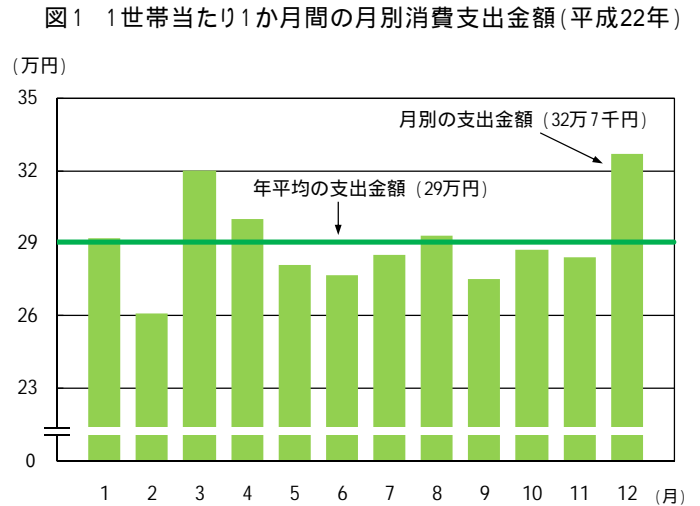
年末年始の消費支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

今年もいよいよ残すところわずかとなりました。12月は忘年会やクリスマス、大みそかにお正月の準備など、年間で最も支出の増える月です。そこで今回は、年末年始の消費支出についてみてみましょう。

12月の支出額は年平均の1.13倍

平成22年における12月の消費支出金額は32万7千円で、22年平均の29万円と比較すると約1.13倍になっています（図1）。



正月用品への支出が増える12月

それでは、他の月に比べ12月に最も支出が増える品目についてみてみましょう。品目別に平成12年と22年の1世帯当たり1か月間の平均支出金額（年平均）を100として12月の支出をみると、「もち」や「かに」などの正月用品への支出は10年前と変わらず高い傾向にあります（図2）。

図2 12月に最も支出が増える品目別ランキング（平成12年及び22年）

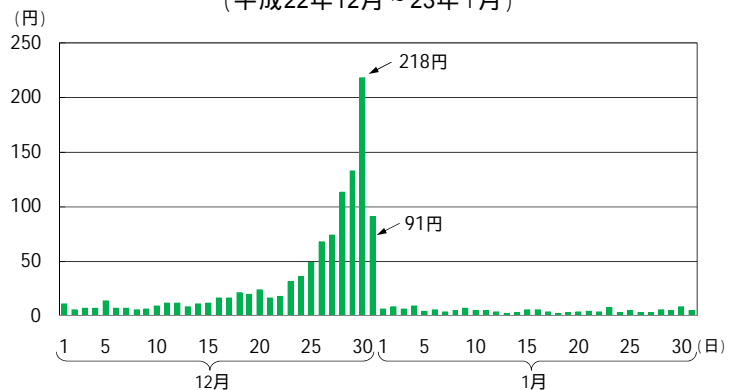
（各品目別年平均 = 100）

平成12年		順位	平成22年	
もち	713	1	もち	684
かに	454	2	かに	590
みかん	401	3	寄付金	457
手袋	400	4	ストーブ・温風ヒーター	427
ストーブ・温風ヒーター	392	5	みかん	388
地代	372	6	かまぼこ	331
豆類	357	7	テレビゲーム機	330
電球・蛍光灯	325	8	ゲームソフト等	322
男子用コート	316	9	豆類	308
かまぼこ	315	10	手袋	302

30日に最も多くなる「もち」への支出

最後に品目別ランキングで1位であった「もち」について、日別に支出金額をみてみましょう。23日から徐々に支出が増え、30日に大幅に増えた後、31日は大幅に減る、とても特徴的なグラフになっています。これは「もち」に含まれる品目の一つである「鏡もち」の「一夜飾り」を避けていることなども一因として考えられます（図3）。

図3 「もち」の1世帯当たり日別支出金額（平成22年12月～23年1月）



鏡もちを12月31日に飾るのは「葬儀の飾り方を連想する」などの理由により「一夜飾り」といわれ縁起が悪いとされています。逆に、飾るのに最適なのは28日といわれていますが、30日もきりの良い数字なので悪くないと考えられています。

12月の家計の状況を見る上で、年末賞与（ボーナス）を含めた収入の動きが大変重要となっております。年末賞与（ボーナス）が支給された世帯におかれましては、家計簿への記入漏れ・記入忘れのないように、お願いいたします。